



毎年のように訪れる2月の寒波。節分の日には大雪警報まで出た阿蘇地方です。見慣れた景色も、ほら、この通りの銀世界。皆さまは風邪やインフルエンザなどにかからず、元気にお過ごしでしょうか。農閑期ではありますが、何かと行事や雑用の多いこの季節。O2ファームの出来事をご報告します。

息子たちが、元気に2歳の誕生日を迎えた数日後、祖父・大津鼎(かなえ)の一周忌がありました。「(農地を)増やしもしなかったが、減らしもせずしっかり守った」と誇らしげに話していた祖父。先祖代々守り継がれた農地がある

からこそ、こうして皆さまに安全で新鮮なお米をお届けすることができるのです。祖父をはじめ、ご先祖様に改めて感謝し、私たちもまた大切な農地を守っていきたく、と改めて思った法事でした。祖父を失った痛手は大きいものの、時折こうして親戚一同が会える機会があるというのはいいものですね。昔の話をいろいろ聞くことができ、あっという間に時間が過ぎていきました。

冬の山仕事が大好きだった祖父。弔いもかねて、耕太はこの時期になると山に入って管理の作業をしています。枯れた竹を運び出したり、シイタケを育てるためにクヌギを切ったり。クヌギは切り株から再生するので、あまり太り過ぎない頃に切るのが良い管理方法なのだそうです。山から響くチェーンソーの音。あー、やってるやってる、と子供たちと耳をそばだてて聞いています。クヌギはシイタケの栽培に使うし、杉やヒノキは建材となるので、管理の必要性が分かりやすいのですが、問題は竹。我が家のボイラーでお湯を沸かすために燃やしていますが、このマタケはもともと「材」として使うために植えられたもの。昔はノリの養殖を始め、たくさんの竹が使われていたので、良く売れたのだそうです。祖父がこまめに管理していたので、我が家の竹林はとても美しい里山の風景となっていますが、ちょっと手入れがされなくなると、「サルも入れない」と言われるほど荒れてしまいます。なんとか新しい利用法を見つけないと、管理が行き届かずに荒れた竹林ばかりが増えることになりかねません。原油高が続く昨今。もっともっとエネルギーや原料として使える仕組みができるといいなあ、と切望しているところです。



ところで、我が家の前にある天神様でNHKのロケがありました。童謡を歌っている「DOYO組」という二人組のお姉さんがやってきて「早春賦」を歌いました。阿蘇山を背景に立つ、天満宮や、田畑、わら小積みなどの、田園風景の美しさが収録地選定の理由だそうです。日本だけでなく世界にも童謡を広げるために2004年に大庭照子氏が結成したDOYO組。2004年12月にファーストCD「こころのアルバム」をリリースし、国内や海外でも多数の公演をこなしています。朝から大型トラックが家の前に止まり、10人を超えるスタッフが忙しく準備。肌を刺すような冷たい風が吹いてはいるものの、背景の阿蘇山はくっきりと美しく見え、絶好の撮影日よりでした。そしてひょんなことからわが家の息子たちにも出演依頼が！曲間に流れる「早春」の映像として、よもぎ摘みをしている姿を映したいとのこと。せっかく機嫌がいい時には太陽が翳っており、ようやくGOサインが出たときには「寒い！」と言って家に帰りたがる二人。本当に寒かったので仕方が無いのですが、どうにか気をそらせて、ヨモギを摘むことができました。放送が楽しみです。



それからもう一つ。農閑期を利用して、おあしす米の精米所をリニューアル作業中。若手の組合員(といっても平均は50歳を超えています)が中心となって、老朽化した壁をはがし、新しい壁を張る作業をしています。来月には立派に生まれ変わった精米所の姿をご披露できると思います。常に向上心を忘れないおあしす米生産者組合のメンバー。もちろん、こうした共同作業の後には宴会が。米作りのことや地域のこと、そして時には政治のことまで語り合いながら、男たちの飲み会は夜中まで続きます。日中に大工仕事をしているのに元気だなー、と感心しつつ、私は先に就寝します。たまにあるこうした共同作業や飲み会が、組合員の絆を深めるよい機会になっているようです。



まだまだ寒い毎日ですが、よく見てみると、庭にはフキノトウが顔を出し、畑のタカナは雪の下でも勢いよく伸びていて、春の兆しもちらほら。3月に入れば、ぼちぼち農作業がはじまります。今は、必要な有機肥料の量を計算したり、作付け計画をたてたり。実際の農作業はまだ少ないですが、徐々に今年の米作りにむけて準備ができつつあります。今年こそ豊作を目指して！...といっても、お天気次第なので、こればかりは何とも言えませんが。寒い日が続きますが、春はそれほど遠くありません。皆さんどうぞお元気でお過ごし下さい。



元気に2歳になりました！